資料１０

**高次脳機能障がい支援体制整備検討ワーキンググループ**

**「高次脳機能障がい支援連携ツール」検討状況と今後のスケジュールについて**

**１．H２８年度高次脳機能障がい支援体制整備検討ワーキンググループ（以下ワーキンググループ）開催状況**

第３回ワーキング開催：　平成２８年６月２９日　１４:００～１６:００

★第２回までのワーキンググループにおける委員からの意見を踏まえた修正点

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 様式名 | 修正内容 |
| アセスメントツール | 高次脳機能障がいチェックリスト | 記載のしやすさきに力点を置き、5段階から2段階に変更。 |
| チェックリスト補足情報 | 表題に「＿さんの配慮してほしいこと」を追記し、記入例を下部に記載することで、「ご本人の困りごと」を支援者に伝える目的であることを明示。 |
| 評価指標 | （参考資料）高次脳機能障がい評価指標（生活の大変さ） | 記憶障がい、遂行機能障がい等の症状やADL等の項目ごとに、「生活の大変さ」度合いを指標とした評価指標を作成。今後作成予定の支援者向けマニュアルに入れ、支援者が支援対象者の状態像を理解、共有し、状態像に応じた支援方法を蓄積するために使用する。 |

★第３回ワーキンググループにおける委員からの主な意見

|  |
| --- |
| **＜ツールの内容、利用方法について＞** |
| ・チェックリスト：「できる」、「できない」の2段階では判断が難しい。4段階くらいでの評価がいいのではないか。 |
| ・利用方法　：◇現在の制度設計では、ご本人・ご家族がツールの記入を各支援者に依頼する方法となっているが、記憶障がいの人はツールを持っていること自体を忘れることもある。また、病識がない人はツールの必要性を感じられないと思うため、直接、支援者間で情報をやりとりする方法も考えた方がいいのではないか。◇ご本人・ご家族のツールに対する取組へのハードルを下げるため、急性期の段階でお渡しする簡単なリーフレットのようなものを作成し、地域生活に戻って困ったときに見返して、自分の困りごとを伝えられるようなものを考えるのもいいのではないか。◇複数の事業所が関わるとき、情報の共有やアップデートの仕方を整理する必要がある。 |

|  |
| --- |
| **＜ツールとしてのその後の展開・・・周知、現状把握、支援方策の検討は？＞** |
| * 地域の支援現場では、対応可能な支援機関先を拡大できないことが大きな問題となっている。このツールがその問題解決に向け、実効性のあるものにしてほしい。
* 就労支援の場合、企業に当事者の意向や就業上の配慮事項を伝えるものとしても、このツールが活用できればと思う。
* 受傷時点での情報を確保することが非常に大事であり、医療機関（特に急性期）の持つ情報確保のしくみを考えることが大事。
 |

**★第3回までに検討ができなかったが今後整理が必要な点**

・病識がない人や障がい受容がまだ十分でない人に対するツールの活用の仕方

・個別性の高い高次脳機能障がいの状態像の共通指標の考え方の整理

**２．平成２８年度の今後のスケジュールと内容**

【第4回ワーキンググループまでの予定（H２８年９月頃）】

（１）第３回ワーキングで出された意見、また、障がい者医療・リハビリテーションセンター、堺市立健康福祉プラザ生活リハビリテーションセンターの利用者に対する予備実施結果に基づき、事務局で修正を加える。

（２）予備実施の後、市町村や各圏域高次脳機能障がい地域コーディネーター拠点機関が有するケースについて、試行実施（パートⅠ）をすることとし、その実施方法の検討を行い、ツールを使用する上での、マニュアル（利用の手引き）を作成。

　　（参考）**予備実施及び施行実施（パート１）での検証内容（予定）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | 予備実施 |  | 施行実施（パートⅠ） |
| 時期 | H28年　　7月 |  | H28年　10月　～　　H29年　1月 |
| 対象機関 | ・府リハセン3機関（相談C、自立C、急性期総合医療C）・堺リハ | ・市町村（市町村から推薦を受けた相談支援事業所等含む）数か所・各圏域高次脳機能障がい地域コーディネーター拠点機関 |
| 検証項目 | ①上記4機関は、障がい福祉サービス事業所、医療機関、専門相談機関であるため、それぞれの立場から、実際のケースをツールに記載してみて、各様式の記載内容の過不足、使い勝手、表現のわかりやすさについて検証。②高次脳機能障がい当事者・家族にとって、ツールの捉え方及びどのようなものであれば利用してみたいかについて収集。 | ①このツールの内容で、支援機関として知りたい情報が取得でき、引き継ぎたい情報を引き継げるのか、当事者・ご家族にとってより良いものとするにはどのような表現等が適切か検証。②「支援者向けマニュアル」の内容がわかりやすいか検証。 |